



OKINAWA

ぬちぐすい

(社) 沖縄県作業療法士会ニュース 2014年1月 発行

「ぬちぐすい」は、沖縄県の作業療法士のみなさまのいのちのくすり（元気の素）になってほしいという願いです。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 … 巻頭言 | 5 … 研修報告 |
| 2 … 事務局より | 6 … 芸能クラブ |
| … 一般社団法人移行作業の進捗報告 | 7 … 作業療法士リレーエッセイ |
| 3 … 第11回沖縄県作業療法学会 | 8 … 財務部 広報部よりお知らせ |
| 4 … パイロット事業について | 編集後記 |

巻頭言

(社) 沖縄県作業療法士会 会長 比嘉 靖 (県立中部病院)

謹賀新年

あけましておめでとうございます。

平成25年は皆さんにとってどのような年になりましたか？
新石垣空港の開港（3月）、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」ブーム（4月）、長嶋氏・松井氏の国民栄誉賞（5月）、2020年夏季オリンピックの東京開催決定（9月）、被災地や全国に感動を与えた楽天初優勝と田中将大投手の力投（11月）、年末には仲井眞知事の普天間基地の辺野古移設承認に沖縄が大きく揺れました。



さて平成26年はどのような年になるでしょう。

国の進める社会保障・税一体改革は財源としての消費税引き上げを担保に、医療提供体系の再構築、地域包括ケアシステムの構築と医療・福祉サービスが大きく変わろうとしております。今年は医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実を基本方針とした診療報酬改定も控え、会員の皆さんもその動向に注目していると思います。

沖縄県作業療法士会も4月からは一般社団法人としてスタートします。

2月16日（日）の県学会には中村協会長もお招きし、「会発足30周年・一般社団法人移行記念式典」を催します。

多くの会員の皆さんと明日の日本・沖縄の作業療法を語り合い、熱い想いをエネルギーにしたいと思っています。今年は馬年！！馬力つけて全力疾走じゃ～！！

事務局より

事務局 久貝 明人

〈平成 25 年度後期総会のお知らせ〉

開催日時：平成 26 年 3 月 8 日（土）19 時 00 分～

開催場所：沖縄県総合福祉センター 403 研修室（東棟 4 階）

※詳細は改めてご連絡させていただきます。

また、18 時 30 分より、同会場にて「九州作業療法士会長会主催合同研修会(マネジメントに活かすコーチング手法～「聴く力」「伝える力」を高めるために～)」の伝達講習会を開催致しますので、奮ってご参加下さい。

〈事務局への問い合わせについて〉

担当者(事務員)が当面不在の為、事務局への問い合わせはメールのみとさせていただきます。

E-mail : oki_ot_a_kugai@yahoo.co.jp

〈県士会費納入について〉

コンビニで納入できる伝票の使用期限が平成 26 年 2 月 10 日となっています。

この日を過ぎるとコンビニでの会費納入は行えませんので、銀行振込での納入をお願い致します(伝票を紛失された場合も銀行振込での会費納入をお願い致します)。

振込先：琉球銀行 宜野湾支店 普通 493549

口座名：沖縄県作業療法士会

年会費：7,000 円（振込手数料は各自ご負担をお願い致します）

〈日本作業療法士協会会員番号の連絡について〉

今年度に入会届を提出された会員で、まだ県士会事務局へ日本作業療法士協会会員番号の連絡をされていない方は、早急に連絡をお願い致します(メールでお願い致します)。

協会番号が無いと県士会への入会手続きを行えません。県士会費は納入されているにも関わらず、協会番号がわからず入会手続きができない会員が存在しています。

昨年度以前に入会届を提出された会員も、県士会からの郵送物等が、「60000 番以上」の番号、または「0 番」「番号の記載が無い」で届く方は「仮番号」で登録されていますので、早急に県士会事務局への連絡をお願い致します。

事務局では、会員整理の為に、「仮番号」の会員を「非会員」とする事を検討中です。

一般社団法人移行作業の進捗報告

会長 比嘉 靖

すでにホームページや FAX 等でご周知の通り、平成 25 年 10 月 17 日付の沖縄県からの答申において、「一般社団法人」への移行認可の許可をいただいています(「公益法人 information」参照)。

当士会としては、正式な法人登記を、年度途中ではなく、平成 26 年 4 月 1 日付で行う予定です(新法人は平成 26 年 4 月 1 日スタートとなる予定です)。

平成 26 年度からは、「一般社団法人 沖縄県作業療法士会」として、これまで以上に社会に貢献できる団体となるよう、更なるご協力を宜しくお願い致します。

「第 11 回沖縄県作業療法学会」のご案内

第 11 回沖縄県作業療法学会 実行委員長 大城 圭

今年度も第 11 回目となる「沖縄県作業療法学会」を開催する事となり、現在、実行委員会では着々と準備を進めております。今回は「沖縄県における作業療法の未来」をテーマに掲げ、演題発表のほか、福祉用具スライディングボードの使用法講座、作品展示などを予定しております。また、特別企画シンポジウムでは、パイロット事業や生活・行為向上マネジメント、認知症、支援教育、就労支援など各分野における実践報告を予定しており、これからの沖縄県での作業療法を担っていく各会員皆様が多くを学べる内容となっております。更に、今回の当学会には日本作業療法士協会の中村春基会長にもご参加いただく予定となっております、(社) 沖縄県作業療法士会創設 30 周年の記念式典も同日に執り行われますので、各会員皆様の多くのご参加をお待ちしております。

日時：平成 26 年 2 月 16 日（日曜日） 9：30～15：00（受付は 9：00 より）

※15 時 10 分からは (社) 沖縄県作業療法士会主催による (社) 沖縄県作業療法士会創設 30 周年記念式典を行います。

場所：沖縄県総合福祉センター(那覇市首里石嶺町 4 丁目 373-1)

内容：(予定)

時間	プログラム内容				
9:00～	受付(会場1階ロビー)				
9:30～	開会式(多目的ホール)				
	多目的	403 教室	402 教室	401 教室	ロビー・アルコーブ
9:50～ 10:50	演題発表 (口述) A-1 セッション	演題発表 (口述) B-1 セッション	演題発表 (ポスター) C-1 セッション	演題発表 (ポスター) D-1 セッション	・スライディング ボード使用方法 講座 (沖縄県福祉用具支 援技術研究会) ・作品展示コーナー
11:00～ 12:00	演題発表 (口述) A-2 セッション	演題発表 (口述) B-2 セッション	演題発表 (ポスター) C-2 セッション	演題発表 (ポスター) D-2 セッション	
12:00	昼食時間				
13:00～ 15:00	特別企画シンポジウム(多目的ホール) 「沖縄県における作業療法の未来」 座長：比嘉靖(沖縄県作業療法士会会長) アドバイザー：中村春基(日本作業療法士協会会長) 内容及びシンポジスト： パイロット事業：喜田浩司 生活行為向上事業：比嘉一仁、田村浩介 認知症関連事業：中野小織 支援教育事業：仲間知穂 就労支援事業：仲地宗幸				

パイロット事業について

担当者：喜田 浩司（ごきげんりハビリクリニック）

沖縄県士会ホームページ、パイロット事業の特設ページ http://www.okinawa-ot.net/pilot_project

「対象者の生活支援をより具体的なものにするために。」

対象者の生活圏域における作業療法士同士の意味のある連携を作る」

『連携の問題って昔から話されているけど、いつまで経っても無くならないよね…』

きっかけは作業療法士同士の集まりで出た何気ない一言でした。

確かに連携は色んな研修会や雑誌のトピックスとして目にします。症例発表やグループワークでも最後には「連携が重要」とまとめられる、本当によく耳にするキーワードです。

●連携とは何だろう。

情報共有の為の連携は、リハサマリーや連携パスなど書面を通じてこれまでも行われました。しかし内容は身体機能やADLの情報に偏り、対象者のその人らしさや意味のある大切な作業についての情報をしっかり伝え、対象者の目標まで共有できているのでしょうか。またそのためには何が必要なのでしょう。

平成25年度、沖縄県作業療法士会では日本作業療法士協会パイロット事業として臨床現場における連携をテーマにした事業を展開しています。本事業は作業療法士が「作業療法の中の連携」について考え、OTらしい連携を実践できるように成長することを目的としています。

●事業内容 「まずは作業療法士同士の連携力UP。」

- ① 運営会議：各施設の管理者が集まり、連携の課題について、話し合いました。
- ② アンケート調査：県内作業療法士を対象とした連携についてのアンケート調査を実施しました。
- ③ 研修会：連携についての研修会を2回開催しました。
- ④ 県内各地区毎の会議：県内を南部、中部、北部の3地区に分け会議を実施しました。
- ⑤ 一筆箋『いちやりば兄弟カード』の紹介と普及活動を実施しました。

●結果

アンケートより：

- ・生活期から急性期への情報伝達がなされていない。
- ・回復期と生活期において「その人らしさ」が伝達されていない。

運営会議や研修会で出た意見より：

- ・連携のスキルは、実践によってのみ研鑽される。
- ・連携のスキル向上は、卒後教育や人材育成の目標に成り得るが、それを特化して学ぶ場がない。

各地区の会議より出た意見より：

- ・『良い連携』をしたいという「作業療法士としての想いを大切にしたい実践」と「しかし臨床では効率化が優先される」という2つの側面でジレンマに陥る。何をもち『良い連携』とするのか。

●まとめ

活動を通じて連携に関する様々な課題が見えてきました。卒後教育でしか学べない連携スキルには「こうすれば技術が身に付く」という虎の巻はまだ見つかりません。ただ「良い連携が今よりも実践できるようになりたい」という気持ちからスタートすることは確かなようです。気持ちを育てる動機は？「良い実践をしている事例の話聞いた」「憧れる先輩の実践を見て」「連携で二度と同じ失敗をしないように」これも決まった動機はないのです。共通しているのは作業療法士がつながり、事例の作業療法を共有すること。2月16日の県学会シンポジウムでは、少しお時間いただいてパイロット事業のご報告をさせていただく予定です。学会への参加もよろしくお願ひします。



研修報告

玉城 高信 (宜野湾記念病院)

平成 25 年 12 月 7、8 日に大浜第一病院 おもと天久の杜ふれあいホールにて、認定 OT 研修会「身体障害領域のマネージメントー病院から在宅につなぐ作業療法の連携技術一」が開かれました。講師は、クリニック安里訪問リハビリテーションセンターで活躍されている宇田薫先生でした。今回はじめて認定 OT の研修会へ参加しました。沖縄からの参加者が多いこともあるためか、講師の宇田先生からは事例提供者の紹介でプレッシャーをかけられはしましたが、全体的に和やかな雰囲気で行なわれ、いくつか気づきを得ることができました。



1 日目は、宇田先生の「連携を行なうための基本的な考え」に関する講義のあと、石川県で訪問リハビリに携わる中森 OT の事例をもとに、サマリーの情報から在宅でのリハの目標やプログラムを考えるなど、ところどころグループワークを交えながら、実際の訪問リハの実践報告がありました。2 日目は、参加者の中から提示された 5 事例をグループに分け、それぞれのテーマに沿って検討・発表を行い、最後に試験を行ないました。

私は 2 日目のグループでの検討で、事例提示を行ないました。開催の 1 ヶ月前より、宇田先生から ICF 表にまとめる課題や、紙面で提示したものや口頭で伝えた内容を色分け作業する課題などをやりとりしていきました。その作業の中で、個人因子がサマリーにはなかなか書きづらいことが、まとめていく中で気づくことができました。グループの中には大学で教鞭をとっている方、神経難病を対象にすることが多い病院に勤めている方もいて、「長い文章のサマリーは、読む気がなくなってしまう」「短いサマリーは伝わりにくい」など、日ごろの臨床の場で同じように感じていることが、話し合っていく中でわかりました。また「サマリーは端的に表現してわかりにくい部分は、サマリーに下線を引く」など工夫をして、足りない情報を口頭で伝えたほうがよいのでは? など、ヒントをいただくこともできました。

この研修に参加して、現在の制度の中では難しい部分もありますが、実際に会って連携することの必要性を感じました。宇田先生が講義の中で言ったように「他職種への尊敬」と配慮を保ちつつも、「専門性をもって」情報を伝え、「連携」を図るために OT が「動く」ことが大切だと思います。OT 同士のつながりを図るツールとして、パイロット事業で作成された「いちやりばちょーでえカード」を活用していきたいと思います。また「連携」に関してさまざまな領域・立場にある OT と対話できる、「交通」の場となるような研修会だったと思います。最後になりますが、講師の宇田先生や中森 OT をはじめ、また今回の研修に参加した皆さんに、この場を借りて感謝申し上げます。



芸能クラブ

ハイサイ 世界のOTさん 世界の窓からこんにちは！

拝祭（ハイサイ）県士会のみなさん、2014年はついにWFOTの開催年ですね。僕は、2年前から待ちに待っておりました。世界のOTと出会い、友達になれると思うとワクワクして仕方ありません。もちろん、各地で活躍しているOTがどんな活動をしているのかを知りたいという事もあります。友達になって、その国に遊びに行けたら素敵じゃないですか？え？？英語？？しゃべれませんが・・・ いいじゃないですか、フィーリングで。そういう英語はしゃべれないけど、世界のOTと友達になりたいという方には「沖縄県作業療法士会芸能一座」に加入する事をお勧めします。オモテナシなんて言葉が流行っていますが、私達うちなんちゅは琉球の時代から得意としてきた事じゃないですか。守礼の邦のOTが世界のOTを出迎えてもてなしましょう。WFOTのメインイベントであるコングレスパーティーにて、沖縄県士会の枠が確定しております。できれば幕開けかフィナーレとしてやりたいのですが、そこまで融通がきくかはわかりませんが、とにかくやることだけは決定しております。

30人程のメンバーでエイサー（宗教上表現に工夫が必要な施設は「太鼓演舞」でも可）をやりたいと思います。3月から練習を始めますので、それまでに各施設から、WFOTに参加する人を報告下さい。チーム沖縄一丸となって世界に飛び出していきましょう。一人だけの参加も大丈夫です。女性の参加も大丈夫です。決して恥ずかしくなんてありません。一生の思い出に残る大会にしていきましょう。みなさんの参加をお待ちしております。

練習の詳細は追って連絡します。

沖縄県作業療法士会芸能一座

顧問： 泰 真実（北中城若松病院）

座長： 仲地 宗幸（株式会社 NSP キングコング）

班長： 西野 陽亮（大浜第一病院）

知念 和紀（天久台病院）

連絡先： アドレス 等



作業療法士リレーエッセイ

沖縄県の作業療法士を紹介します。第10回は、田村知佳さんです。

こんにちは。私はオリブ山病院で働いている、OT5年目の田村知佳と言います。当院は主に内科と精神科があり、私は内科の回復期リハビリ病棟に所属しています。

当院の回復期リハビリ病棟は、リハ室と病室が同じ階にあるためADL介入の機会が多い事や、病棟でのリハも積極的に行う事で他職種との情報交換が行いやすい環境となっています。

また、最近ではロボットスーツ HAL(ハル)を導入し、2013年7月から実際に患者様へ使用し有効性が確認されています。

PT・OTでHAL(ハル)チームを作り、より質の高いものになるようミーティングを重ね、試行錯誤しながら行っています。

私はOTとして5年目になりましたが、臨床場面ではまだまだ分からないことの連続で、未だに自分の知識や技術不足に落ち込む日々です。

患者様の人生に関わる仕事でもあるので、背負うものが大きくへこんでしまう事もありました。それでも、患者様から「この病院に来てよかった」と言ってもらえたり、退院した方から感謝の手紙を頂いたり、退院後も元気に暮らしていると病院へ

報告に来た方の笑顔を見るたびに、OTとしてのやりがいを感じ、また頑張ろうという気持ちになります。

今後は臨床場面で必要な勉強だけでなく、社会・福祉サービスなどの分野も勉強し、患者様や介護する家族にとって最適な自宅での生活が送れるよう支援できるOTになりたいと思っています。



田村知佳さんからのバトンは誰の手に！？ 次回をお楽しみに！

読書日記&見学に行ってきました

こんにちは。琉球リハビリテーション学院の中村千枝と申します。今回は、私が最近読んだ本をご紹介します。藤本直規『認知症の医療とケア「もの忘れクリニック」「もの忘れカフェ」の挑戦』(クリエイツかもがわ)、藤本直規・奥村典子『続 認知症の医療とケア「根拠のあるケア」を追い求めて』(クリエイツかもがわ)、奥村典子・藤本直規『もの忘れカフェの作り方』(徳間書店)の3冊です。いずれも、認知症の方ご本人がどうありたいかを、時に過激に戦いつつ徹底的に追求している、素敵な取り組みが紹介されています。認知症の人の作業を可能にする環境の工夫・スタッフの支援について、作業療法士として大変参考になるオススの本です。

昨年末、ご縁がありまして、これらの本の舞台である滋賀県守山市の藤本クリニックを実際に見学する機会をいただきました。私が伺った日は、若年性認知症の方々を主体に、地域の自治会・家族の方が一緒に内職をする「おしごとカフェ」の日でした。休憩をしっかりとれるようキッチンタイマーを活用したり、作業内容が混乱しないよう部品を置くトレイの色を分けたり…スタッフがあれこれ手を出さなくても、ご本人が持っている力が活用できるよう、さりげない環境の工夫、スタッフの絶妙な声掛けなど、沢山勉強させていただきました。

今回の見学では、作業の実現を支援する専門家として地域に根ざすべく、大いに刺激を受けることができました。今後も、自分の作業療法士力を高めていくために、研鑽していきたいと思っています。



財務部よりお知らせ

県士会費納入について

沖縄県作業療法士会では、学術技能の向上を目的に学会や研究会・講演会の開催や、学術誌の発行などを行っております。これらの運営は、みなさまからの会費によって成り立っております。また、県士会主催の学会・研究会などについては、当該年度までの会費が納入済みであることが参加の前提になります。個人、または全会員に対し意義ある県士会としての円滑な運営がなされるためにもみなさまのご協力が必要です。

尚、銀行振り込みを利用される場合は下記口座まで宜しくお願い致します。

※納入額が不明の場合は財務部までご連絡ください。

※銀行振込の場合、振込名は会員名でお願いいたします(複数でのお振込みの場合はFAXにてその旨をご連絡下さい)。

※ご質問等ございましたら下記の連絡先にお問い合わせ下さい。なお、電話対応には時間の制約がございますので、FAXでのお問い合わせもご利用していただきますようお願い致します。何卒ご配慮をもってご了承賜りますようお願い申し上げます。

振込先 : 琉球銀行 宜野湾支店
普通 493549
口座名 : 沖縄県作業療法士会
年会費 : 7000円
(振込手数料は各自ご負担下さい)

財務部 ^{やましる たかし} 山城 峻 (沖縄リハビリテーション福祉学院)

TEL (098) 946-1000

FAX (098) 946-1999



広報部よりお知らせ

(社) 沖縄県作業療法士会のホームページ <http://www.okinawa-ot.net/>

研修会案内などのホームページ掲載について

(社) 沖縄県作業療法士会ホームページに研修会案内などの掲載を希望する場合は、記事原稿を添付し、広報部 E-mail まで送信ください。尚、記事のフォント・掲載形式は広報部編集担当が調整致します。

- ※ ホームページへの掲載は、随時受け付けております。
- ※ 掲載費用は必要ありません。
- ※ 営利目的の割合が大きいと判断された場合等、掲載不適切と判断された場合は、掲載をご遠慮いただくことがありますのでご了承ください。
- ※ 研修会案内の掲載、記事の投稿、ご意見、ご要望、ご感想など、下記アドレスまでメールください。

(社) 沖縄県作業療法士会 広報部 E-mail ot_kouhou@yahoo.co.jp

編集後記 まだまだ寒さが残りますが、もう年度末の忙しさが…。次年度の新しい仲間を楽しみに待ちつつ、私も OT として学びの毎日を楽しんでいます！

広報部 理事 田村浩介 (いきがいのまちデイサービス) 広報部長 久田直希 (琉球病院) 広報副部長 中村千枝 (琉球リハビリテーション学院)
部員 泰真実 (北中城若松病院) 仲間知穂 (琉球リハビリテーション学院) 仲松藍 (琉球リハビリテーション学院)

事務局 : (社) 沖縄県作業療法士会 〒903-0804 那覇市首里石嶺町 4-373-1 沖縄県総合福祉センター内

Tel・Fax : 098-988-3711 E-Mail : oki_ot_a_kugai@yahoo.co.jp

事務局長 : 久貝 明人 (カガイアキト) 宜野湾記念病院 リハビリテーション科

〒901-2211 宜野湾市宜野湾 3-3-13 Tel : 098-893-2101 Fax : 098-892-8863

発行人 : 比嘉靖 (会長) 編集人 : 田村浩介 (広報部担当理事) 印刷 : 丸正印刷株式会社